



---

# クイーンズランド州レポート

---

創価高校 2 年小出七海



平成 30 年度 8 月 3 日～19 日

## 目次

表紙 .....	1
目次 .....	2
はじめに.....	3
イエップーンの自然.....	4
気候	
動物.....	5
クイーンズランド州の教育	
おわりに.....	6



## ✚ はじめに

今回埼玉親善大使としてクイーンズランド州に滞在させていただいた小出七海です

始めに、このような貴重な経験をさせて頂いたことへの感謝を埼玉県・クイーンズランド州の職員の皆様、お世話になったイエップーン高校の先生方、私のホストファミリーである Jones family、一緒にこのプログラムに参加した二人、そして協力してくれた家族に伝えたいです。

このような貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

今回の旅は私の人生にとって最高の経験となり、さらに英語や勉学に打ち込もうと決意するきっかけになりました。

このレポートでは現地での生活や体験したことを自然・教育の項目に分けてまとめていきたいと思えます。

## ✚ クイーンズランド州イエップーン

### ✚ イエップーンの自然

#### 気候

今回訪れたイエップーンはオーストラリアの北東に位置する小さな港町です。

埼玉県から約6,500km離れたところにあり、時差は1時間、私が訪れた8月の季節は冬でした。

しかし、朝と夜こそ凍えるような寒さでしたがお昼になると半袖がちょうどいいくらい暑く、週末には海に入ることもできました。



オーストラリアは一年を通して暑く、クラスメイトの中には雪を見たこと事がないという子もいて驚きました。

また、オーストラリアならではの乾燥を危惧していましたが、海に近かったこともあり、思っていたよりも乾燥はひどくありませんでした。



## 動物

オーストラリアには4種類のカンガルーが生息しており、その中の一種をなんと街中で見る事が出来ます。

イエップーンが都市ではなかったということもありますが、買い物帰りに車を走らせているだけで野生のカンガルーに遭遇します。

近頃はカンガルーの増えすぎが問題となっており、レストランなどで食すこともできます。

(決して一般的に食べられているのではなく、現地でもゲテモノ扱いされていました。)

私もカンガルーのジャーキーを食べましたが、特にクセはなく、普通の肉との違いをあまり感じず、おいしくいただきました。



また、たくさんの動物と間近で触れ合うこともできました。

私が訪れたクーベリーパークでは、カンガルーやエミューを始めとする動物が放し飼いされており、間近で餌をあげ、日本ではなかなか経験することのできない体験をすることができました。

追加料金を払うとコアラを抱っこすることができるのですが、本当に可愛いらしかったです。

オーストラリア国内の動物園でもコアラと触れ合うことのできる動物園は少ないみたいなので訪れることをお勧めします。



## ✚ クイーンズランド州の教育

イエッブーン高校に2週間通わせていただいて印象に残ったことは主に二つあります。

一点目に、教育環境の質の高さです。イエッブーン高校は公立高校であり、イエッブーン自体も都心部ではないのにもかかわらず、すべての教室に電子黒板が設置されていました。先進国である日本の都市部でさえも、高価な電子黒板の普及率は低く、そのような教育環境を持つ施設は少ないですが、都市部ではないイエッブーンの公立高校にそのような充実した教育環境があることにとっても驚きました。



また、教員の先生方の人数も十分に確保されていたことも印象的でした。例えば、オーストラリアではドイツ語と日本語の二つから外国語を選択することができます。それに伴い、ドイツ語・日本語を教えることのできる先生が必要です。一人の先生がすべてを受け持つというわけにもいかないの、やはり何人かの先生が必要です。このような外国語に特化し、教えることのできる人事をオーストラリアの中でも比較的田舎に分類されるイエッブーン（繰り返しにはなりますが、決してばかにしているわけではない笑）で確保することは容易ではないはずですが、しかしながら、日本では都心部のほうが良い教育を提供することのできる人材が集まりやすく、教育格差が問題になっています。このような格差がないことも、オーストラリア政府の教育への意識の高さの現れだと思い、とても感銘を受けました。

二点目に、語学教育に対する日本との違いです。日本の英語教育に対する意識はとても高いと思います。英語は今や世界共通語となり、日本の企業や外交の際に世界と渡り歩いていく中での重要なカギとなっています。よって、高校・大学入試の際にも必修科目であり、就職の際にも英語の試験のスコアが一つのボーダーラインとされるなど、英語の習得は、日本社会の中で必然的に重要な課題となっています。しかしながら、オーストラリアの公用語は英語であり、彼らにとって母国語が世界共通語という状況です。よってオーストラリアにおいての外国語習得においての意識は日本と違いが生じるように感じられました。例えば、現地での高校



3年生の日本語の授業は、ゲーム形式で行われる、日本語を楽しもう！といったコンセプトに近いものでした。（日本の小学5年生の英語の授業と似ています！）

よって、私たち日本人が英語の習得にかかる時間を、個々の専門性や創造性を高めるような内容に時間を使うことができる為、うらやましく思いました。日本の教育は創造性を伸ばすことや、やりたいことを見つけることが難しいと言われることが多くありますが、このような側面があるからではないかとも思いました。



## ✚ おわりに

私がこの留学のなかで学んだ一番大きなことは語学はコミュニケーション手段でしかないということです。私の英語は完璧ではなく、オーストラリアでのコミュニケーションで困る事も多くありましたが、その時に助けてくれたのは私が今までやってきた習い事や趣味でした。ホストシスターとなかなか打ち解けられず悩んでいるときは、私が中学時代にやっていた陸上を通して、仲良くなることができました。また、学校の友達との話題がなくて困っているときには、私がその時持っていた、大好きでやっと買ってもらったバッグが助けてくれ、会話が弾んだこともありました。もちろん最低限の英語力は必要でしたが、最後に真に仲良くなるためのカギは自分が今までどんなことに多くの時間を使い、深めてきたのかということだということに気が付きました。特に陸上に関してはつらいことのほうが多い思い出でしたが、まさかこんなところで役に立ち、すべての自分の経験が無駄ではない、と思うことができる良いきっかけとなりました。オーストラリアに行く前の私は自分の持っている時間を大切に使うことができていなかったのがこれから改めていこうと思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい経験をさせてくださった埼玉県の皆様にもう一度心からの感謝を述べさせていただきたいです。今回のこの留学は、私の人生にとってたくさんの気づきを与えてくれる素晴らしい経験でした。本当にありがとうございました。

これからも、埼玉親善大使としての自覚を忘れず、埼玉県や日本に貢献できる人材に成長していきます。

